

集落営農法人の経営発展支援

■ 農事組合法人諏訪 ■

(東讃農業改良普及センター 松本匠哉)

●対象の概要

高松市の諏訪地区は、高松市のほぼ中央に位置し水稲を中心に麦や野菜栽培が行われている。平成17年に、高齢化や混住化等により個々での農業経営が難しくなってきたため、育苗や農業機械の共同利用を目的に任意の集落営農組織を設立した。その後、経営の継続及び安定を目指して、法人化の検討を進め、平成21年度に農事組合法人諏訪（以下、(農)諏訪）に移行した。現在、構成員は7名で、水稲、麦類に加え、ブロッコリーと施設アスパラガスを栽培する複合経営に取り組んでいる。

●課題を取り上げた理由

管内の設立後10年を経過した農業法人の多くが、構成員の高齢化や後継者不足、組織経営などの問題を抱えている。(農)諏訪も同様の状況で、4haと狭い経営耕地面積を補うため、米麦だけでなく高収益作物である園芸作物の導入に取り組んできた。しかしながら、後継者の経営参画が進まないことや、園芸作物が効率的に生産できていない等の問題があった。このため、同法人を普及計画上の集落営農法人における経営改善支援のモデルと位置付け、重点的に取り組んだ。



(農)諏訪 定例会の様子

●普及活動の経過

1 構成員の誰もが分かる環境面の整備

従来は構成員に農業経験があり、法人の経営や作物の栽培方法等が構成員間で情報共有できて

いたが、経験がない、少ない新規の構成員では理解が難しかった。

このため、環境面の整備に取り組んだ。具体的には、構成員の使用頻度が高い農薬や農業機械について、GAPの基本でもある整理整頓について、定例会で提案した。農薬保管庫については、種類別に保管することや流出防止のトレーを使用するなどを指導した。また、令和2年度、新設した農機具格納庫については、配置図を作成して決まった場所に保管したり、機械台帳を整備し記帳・記録する指導を行った。



農機具格納庫での指導

2 栽培技術の支援

1) 水稲・麦の収量向上支援

水稲は、収量が低いことが課題となっており、令和元年に「はえぬき」から多収性の「あきさかり」への品種転換を行った。しかし、管内で導入間もないことから栽培技術が確立しておらず、収量が安定しなかった。そのほか、育苗も、近年、育苗期間中の最高気温が30℃を超えることがあり出芽が安定せず、苗立枯病の発生など良質苗の確保に苦慮していた。

一方、麦類は、平成29年度から小麦を導入し、はだか麦との2麦作付としたが、湿害や雑草の発生により収量が低下していた。

そこで、「あきさかり」と小麦の展示ほを1か所ずつ設置し、肥料や農薬の効果確認を行うとともに、育苗では、病気の発生に悩んでいたシルバーポリトウ被覆から、アルミ蒸着フィルムによるベタ掛け出芽とプール育苗を提案し、試験的に導入した。結果等について、現地指導（8回）や定例会（毎月1回）で情報提供を行い、水稲・麦類の栽培技術の向上を図った。

2) 高収益作物の面積拡大支援

ブロッコリーと施設アスパラガスについては、園芸部門と連携して、技術資料の配布や現地指導（8回）を行い、高収益作物の安定生産と面積拡大を図った。

3 機械導入支援

米麦や園芸作物を効率的に生産するための機械導入について、担い手育成部門と連携して経営分析を行い、機械導入計画を策定した。また、国や市の補助事業や農業経営基盤強化準備金制度を有効に活用し、計画的な機械導入を図った。令和2年度に麦播種用の逆転ロータリー、ブロッコリーの定植機、マルチ付畝立整形機を導入し、機械作業による省力化が実現した。

●普及活動の成果

1 環境面の整備

農薬保管庫については、乱雑だった農薬の配置を殺虫剤、殺菌剤、除草剤、展着剤といった種類別に整理できた。また、流亡防止トレーの設置により、万が一農薬がこぼれた場合でも容易に片づけできるようになった。農機具格納庫については、機械台帳による記帳・記録管理や、作成した配置図に基づく農機具の保管によって、効率的な作業が可能な経営環境が整えられた。



農薬保管庫の整理整頓と農機具格納庫の配置図

2 技術支援による収量向上・面積拡大

水稻については、肥料設計や病害虫雑草防除指導などにより「あきさかり」の栽培技術が安定した。また、アルミ蒸着フィルムによるベタ掛け出芽とプール育苗の導入によって健苗が確保できた。その結果、10a当たりの収量が平成29年度と比較して、388kgから420kgと増加した。

小麦については、明きよの設置による排水対策の徹底や雑草の適期防除によって技術改善が図れた。その結果、10a当たりの収量が平成29年度と比較して、小麦で406kgから449kg、はだか麦269kgから427kgと増加した。

高収益作物の面積拡大については、園芸部門との連携した技術指導によって、平成29年度と比較すると、ブロッコリーで35aから45a、施設アスパ

ラガスで8aから13aと作付面積が拡大した。

3 機械作業による省力化

機械の導入により、麦の耕うん・播種、ブロッコリーの定植、畝立て、除草の工程において機械作業化が進み、各工程について10a当たり、耕うん・播種は4時間から1時間、ブロッコリーの定植は120時間から48時間、畝立ては96時間から24時間、除草は192時間から0.5時間と労働時間が削減された。4作業を合計した労働時間は412時間から73.5時間と導入前に比べ約8割減少し、大幅な省力化が図られた。

4 法人の経営改善

こうした改善に取り組むことで、水稻・麦類の収量向上や高収益作物の面積拡大が図られ、収益性が向上し、構成員への従事分量配当も1,000円/hから1,500円/hに増加するなど経営が安定した。

5 他の集落営農組織への波及

「集落営農組織の世代交代の手法の紹介・提案」をテーマに令和3年10月20日に高松市・三木町集落営農組織代表者等会議を開催した。管内から17組織30名の参加があり、その中で（農）諏訪での1～4の取組み事例を発表し、他の組織に周知するとともに、取組みで用いた帳票などの様式を、不参加組織を含め管内の組織に配布した。



高松市・三木町集落営農組織代表者等会議

●今後の普及活動の課題

1つ目の課題は、技術・経営環境の整備である。GAPのさらなる推進により、品目別の栽培技術マニュアルの作成や次世代対象の技術講習会の開催などを支援し、次世代への技術継承を進める。2つ目の課題は、経営品目の収量向上・面積拡大である。引き続き他部門との連携を図りながら、栽培指導等の技術支援を行い、さらなる経営安定化を進めていく。3つ目の課題は、高齢化と人材不足の解消である。かがわ農業経営相談所の専門家派遣や県のソフト事業等を活用し、次世代への事業承継を支援していく。

今後、（農）諏訪の取組みをモデル事例とし、管内の集落営農法人等へ広げるなど、経営発展に向け、引き続き支援していきたい。